

## 産業廃棄物処理計画書

令和 6 年 4 月 5 日

群馬県知事 殿



提出者 〒379-0125  
住 所 群馬県中市中野谷 3097-4  
氏 名 北関コンクリート工業株式会社  
代表取締役 木佐貫 勝哉  
電話番号 027-385-0011

廃棄物の処理及び清掃に関する法律第 12 条第 9 項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他の処理に関する計画を作成したので、提出します。

事業場の名称	北関コンクリート工業株式会社
事業場の所在地	群馬県安中市中野谷 3097-4
計画期間	令和6年4月1日～令和7年3月31日

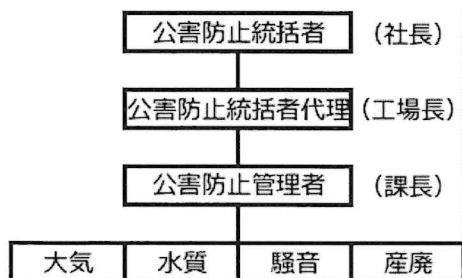
当該事業場において現に行っている事業に関する事項

①事業の種類	窯業・土石製品製造業 (E 21)
②事業の規模	令和5年度実績 生産量 6,700トン 出荷量 6,600トン 売上金額 4.8億円
③従業員数	32名
④産業廃棄物の一連の処理の工程	<pre> graph TD     subgraph BusinessSite [事業所]         direction LR         A[コンクリート製造] --&gt; B[型枠組立]         B --&gt; C[製品製造]         C --&gt; D[蒸気養生]         C --&gt; E[製品脱型]         E --&gt; F[自然養生]         F --&gt; G[製品出荷]         H[不良品の発生] --&gt; I[ガラスくず・コンクリートくず 及び陶磁器くず]         J[資材] --&gt; K[廃プラ 木くず]     end     I --&gt; L["(1) 保管場所"]     K --&gt; M["(2) 保管場所"]     D --&gt; L     E --&gt; L     F --&gt; L     G --&gt; N["(1) 保管場所"]     L -.-&gt; O["保管場所から収集運搬（運搬業者・ 自社）し各処分先で処分"]     M -.-&gt; O     </pre>

## 産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項

(管理体制図)

(管理体制図)



社長がこれにあたり、公害防止のために必要な業務が適切かつ円滑に実施されるよう処置を請じてその業務を統括管理する。

工場長が現場の任にあたり、公害防止業務の統括を行う。

製造課長、業務課長はそれぞれ職場における公害防止業務を行う。

## 産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

①現状	【前年度（ 5 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	ガラスくず・コンクリートくず及び陶磁器くず	廃プラスチック・木くず
	排出量	1,910 t	11 t
	（これまでに実施した取組） （コンクリートくず） 不良品発生防止への取組みや残コンクリートを利用した製品歯止めの製作。工場内使用の土留ブロックを製作し廃棄物の削減に努めた。 （廃プラ・木くず） 特になし		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	ガラスくず・コンクリートくず及び陶磁器くず	廃プラスチック・木くず
	排出量	1,700 t	8 t
	（今後実施する予定の取組） 残りコンクリートを利用した製品歯止めの製作を継続し廃棄物の抑制を図る。又、製造時のコンクリートの歩留まりの適正化を図り作業者に周知する。木製歯止めを残コン利用のコンクリート製に置き換えることで、木くずの発生を減少させる。		

## 産業廃棄物の分別に関する事項

①現状	（分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組） 廃ダンボール、鉄くずは分別し資源リサイクル化に取り組んでいる。
②計画	（今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組） 資源リサイクルを継続する。

## (第3面)

## 自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項

①現状	【前年度（ 5 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	ガラスくず・コンクリートくず及び陶磁器くず	
	自ら再生利用を行った産業廃棄物の量	10 t	t
	（これまでに実施した取組） 残コンクリートを利用した製品歯止めの製作。工場内使用の土留ブロックの製作。		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	ガラスくず・コンクリートくず及び陶磁器くず	
	自ら再生利用を行う産業廃棄物の量	3 t	t
	（今後実施する予定の取組） 残コンクリートを利用した製品歯止めの製作。		

## 自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項

①現状	【前年度（ 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら熱回収を行った産業廃棄物の量	t	t
	自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量	t	t
	（これまでに実施した取組）		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら熱回収を行う産業廃棄物の量	t	t
	自ら中間処理により減量する産業廃棄物の量	t	t
	（今後実施する予定の取組）		

## (第4面)

## 自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項

①現状	【前年度（      年度）実績】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った産業廃棄物の量	t	t
	(これまでに実施した取組)		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う産業廃棄物の量	t	t
	(今後実施する予定の取組)		

## 産業廃棄物の処理の委託に関する事項

①現状	【前年度（      5      年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	ガラスくず・コンクリートくず及び陶磁器くず	廃プラスチック・木くず
	全処理委託量	1,910 t	11 t
	優良認定処理業者への処理委託量	t	11 t
	再生利用業者への処理委託量	1,910 t	t
	認定熱回収業者への処理委託量	t	t
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	t	t
	(これまでに実施した取組)		
	処理委託契約の継続		

(第 5 面)

②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	ガラスくず・コンクリートくず及び陶磁器くず	廃プラスチック・木くず
	全処理委託量	1,700 t	8 t
	優良認定処理業者への処理委託量	t	8 t
	再生利用業者への処理委託量	1,700 t	t
	認定熱回収業者への処理委託量	t	t
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	t	t
	(今後実施する予定の取組)		
※事務処理欄			

備考

- 1 前年度の産業廃棄物の発生量が1,000トン以上の事業場ごとに1枚作成すること。
- 2 当該年度の6月30日までに提出すること。
- 3 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。
  - (1) ①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
  - (2) ②欄には、製造業の場合における製造品出荷額(前年度実績)、建設業の場合における元請完成工事高(前年度実績)、医療機関の場合における病床数(前年度末時点)等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の実績を記入すること。
  - (3) ④欄には、当該事業場において生ずる産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程(当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。)を記入すること。
- 4 「自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。
- 5 「産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者(廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第6条の11第2号に該当する者)への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者(廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者)である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。
- 6 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、産業廃棄物の種類が3以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「一」を記入すること。
- 7 ※欄は記入しないこと。